

Vol.13

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネサンス協会
八幡市八幡高畑 10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

◆ 目次 ◆

八幡に生きる	… 1
弥生の至宝	… 2
やわたしぜんだより	… 4
八幡巡礼	… 6
宗教と社会	… 7
八幡の芸能	… 8
八幡 俳句歳時記	… 9
コロナ禍を考える	… 10
八幡の歴史	… 11
読者の文芸／編集後記	… 12

八幡に
生きる

終戦直後の思い出

船橋 好子

知る・見る・考える
八幡市民の
交流誌

きずな

昭和15年、八幡城ノ内にて3人兄妹の末子に生まれました。2歳より6歳までの4年間に父と祖母、祖父の3人と死別しましたが、母子4人の他に電々公社に勤めていた伯母も同居しており、府庁に勤める人たちが常に2人は下宿されていて、毎日夕食は家族同様7人で賑やかに食卓を囲み、その日の出来事を話し合ったりしていたので、寂しいと思ったことはありませんでした。

菓子や食料品を売る小さな店

を営みながら、洗濯機や掃除機も無い時代に、拭き掃除や料理も手抜きせず、そのうえ府の事務所の手伝いまでしつつ、下宿の人の食事や洗濯の面倒までこなしていた母は本当に凄いなと思いました。

昭和20年8月に終戦を迎えて世の中の情勢も急変します。

そんなある日、いつも遊んでいた近所の魚屋の芳^よちゃんと小学校へ遊びに行くと、グラウンドいっぱいカーキ色の金属片がばらまかれていたのです。

長方形の物や円い物、穴の空いた物など多種多様。男の子たちが興味深くその金属片を熱心に拾い集めています。私たちもわけのわからないまま、炎天下の運動場、女兒2人で懸命に形の良いのを捜しました。スカートの前部分に受けて入るだけ入れ、素晴らしい宝物に出会ったような誇らしい気持ちで持ち帰りました。11歳の兄にそっと見せると、「近くの（軍需）工場ですでた部品が、いらなくなつて捨てられたのやないか」と言っていました。好奇心は少々冷めたものの、その日、そこで

得た感動の記念にいくつかを大切に遺しておきました。終戦の5歳の夏の貴重な思い出です。

昭和22年、八幡小学校に入学。歴史ある学校で、明治生まれの母や昭和生まれの私や娘達、平成生まれの孫も皆学び巣立った母校です。その間、学び舎は木造から鉄筋へ。名称も尋常小・高等小から国民学校等を経て、現在の『八幡市立八幡小学校』に変遷。

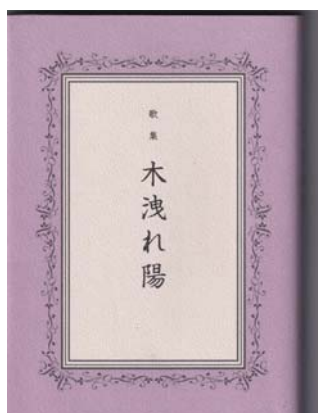
私の母は明治42年に川口の農家に生まれ、遠い徒歩通学のため、低学年の厳寒の朝には、「親がそつと、まだ温かい小さな丸焼きの芋を着物の袂に入れてくれて、手がかじかむとそれを握って温めながら通学したことも」と、当時を語ってくれたこともありました。

まだ私が3年生の頃、戦後の荒んだ日々に楽しい事をと、本妙寺の奥様が提案され、お金をかけずに家にあるやかんや杓子や鍋の蓋、お盆等を持ち寄って楽器代わりにして、「がらくた音楽隊」と名付け、近所の子どもたちでお寺の本堂の前で合奏したことも記憶しています。

子どもたちの周囲に高級なゲーム等が氾濫している現代には信じ難いかもしれませんが、終戦後の私たち小学生がこの八幡で体験した事なのです。物は無くても人の心は温かでした。山あり、川あり、竹林あり。こんな八幡が好きで、30代に戻つて来て50年。今もしたたかに八幡の一隅で老いを生きています。

◎好子さんは、今年3月に『歌集 木洩れ陽』を出版されました。その中から3首紹介させていただきます。

昼は店夜は針仕事と忙なれど
母は夜毎に本を読みぬき
わが足の型紙とりて晦日夜に
母縫ひ給ひき正月の足袋
目覚むれば母縫ひ呉し白足袋の
枕辺にありし十歳の元旦とを





式部谷銅鐸 (3)

濱田博道

1962年八幡市式部谷で宅地造成工事中、弥生時代後期(2世紀初頭)の大型銅鐸(高さ66cm)が出土したことはすでに述べました。今回はこの銅鐸を持っていた集落(ムラ)について考えてみます。

近年の発掘調査で、八幡地域に銅鐸が作られた時代(弥生時代後期)の遺跡がたくさんあることがわかっていきます。遺跡からは水田跡・多数の建物跡・弥生土器・方形周溝墓(弥生時代・古墳時代初期の溝で方形に区画された墓)などが発掘・発見され、特に美濃山地域の遺跡では集落の様相も明らかになってきています。

八幡地域の弥生時代遺跡を前期・中期・後期に分けて見ていきたいと思っています。

① 弥生時代前期

紀元前10世紀頃、北部九州に水稻農耕が伝わり、長い年月を経て日本各地へと伝播しました。近畿地方に

も紀元前5〜7世紀頃、水稻農耕が伝わりました。

高槻市の安満遺跡・四条畷市の雁屋遺跡で水田跡や炭化米、長岡京市の雲宮遺跡では稲花粉や炭化米などが発見されています。乙訓地域では大山崎町の下植野南遺跡や長岡京市の開田遺跡などの遺跡で弥生土器や墓・溝などの遺構が確認されています。

しかし八幡地域では、後期旧石器時代や縄文時代草創期の石器は確認されていますが、弥生時代前期の遺跡・遺物は確認されていません。



↑前期 (BC.6 ~ BC.4 世紀) 遺跡分布

② 弥生時代中期

弥生中期になると、八幡地域にも遺物や遺跡を確認することができま

す。金石衛門垣内遺跡・美濃山遺跡・内里八丁遺跡がそれです。

は水田近くの低湿地にあります。弥生時代中期には低湿地のムラは減少していく傾向がみられる」と同志社大学歴史資料館・若林邦彦教授は述べています。(「弥生〜古墳時代以降期の集落と社会」)

八幡地域の中期の集落は低湿地・微高地にもありますが、美濃山丘陵上にも展開しています。



↑中期 (BC.4 ~ AD.1 世紀) 遺跡分布

向日市の鷄冠井遺跡ではこの時期の銅鐸鑄型(最古段階)が発掘されています。農耕によって生活に少しゆとりが生まれているのか、すでに分業が始まり銅鐸を作る専門家集団ができています。木津川市相楽台遺跡からは中段階(扁平紐式六区袈裟)の式部谷銅鐸、40・5cm、紀元前)が出土しています。



→銅鐸鑄型
鷄冠井遺跡出土
『向日市の歴史』



→銅鐸の復元模型
向日市文化資料館提供

③ 弥生時代後期

式部谷銅鐸が作られた弥生時代後期、八幡地域には濃密に集落が分布します。

備前遺跡・南山遺跡・美濃山遺跡・美濃山廃寺下層遺跡・宮ノ瀬遺跡・西ノ口遺跡・幣原遺跡・内里八丁遺跡・木津川河床遺跡などです。これらがなぜ弥生時代後期の遺跡とわかるかというと、弥生後期の土器(甕・壺・器台・高杯など)が出土しているからです。集落は段丘あるいは丘陵上の遺跡が圧倒的に多くなります。この他、銅鐸出土地としての式部谷遺跡(弥生土器も出土)・墓域としての幸水遺跡(方形周溝墓18基)などがあります。



↑後期（AD.1～3世紀）遺跡分布

内里八丁遺跡からは弥生時代後期の水田跡や稲の切り株跡が発掘されています。

弥生時代後期は低地にも丘陵上にも、移動しながら集落をつくっていく時代といわれます。弥生時代中期の間は降水量が少なく、乾燥傾向だったのに対し、紀元前1世紀頃を境に6世紀頃まで降水量が大きく増加します。そういう気候変動も低地にも丘陵上にも、移動しながら集落を作る一因ではないかといわれています。

内里八丁遺跡では、水田跡の上に洪水で流されてきた砂礫層が堆積し、水田の稲の切株、人や動物の足跡までそのままパックされて発掘されました。そのことで洪水が水田を襲ったことがわかります。



↑内里八丁遺跡
八幡市教育委員会発行
発掘調査展冊子(1993)より

また、この後期はムラの集団同士が結びつき、拡大・縮小・統合など地域社会のまとまりが変化し始める時代です。水稲耕作が定着し、ムラにより富が蓄えられ、階層化へのはじまりの時期にあたります。

その弥生時代後期に山代（山城）地域では唯一、八幡で式部谷銅鐸という大型銅鐸が発見されました。

最近、第二名神高速道路建設に先立ち美濃山遺跡の発掘調査がありました（現在発掘は終了）。その結果、美濃山丘陵にある住居は生駒山地から派生する北河内地域の枚方丘陵・長尾丘陵の住居（例、藤坂東遺跡）と同様の構造（屋外排水溝をもつ住居）であることが明らかになっています。（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター「143回埋蔵



↑内里八丁遺跡の水田ジオラマ
八幡市ふるさと学習館内
八幡市教育委員会提供

文化財セミナー「弥生時代の住宅事情」2020年。

このことから美濃山地域の集落は生駒山地から派生する丘陵上の集落との関連が推測されます。詳しい報告が待たれるところです。

式部谷銅鐸は内里・美濃山地域の有力な集落あるいはその共同体が持っていたと考えられます。

次回は山城地域やその周辺地域の銅鐸について考えてみたいと思います。



↑長い屋外排水溝を持った住居（円形住居と方形住居）
美濃山遺跡（美濃山出水）
府埋文センター『パネル』より



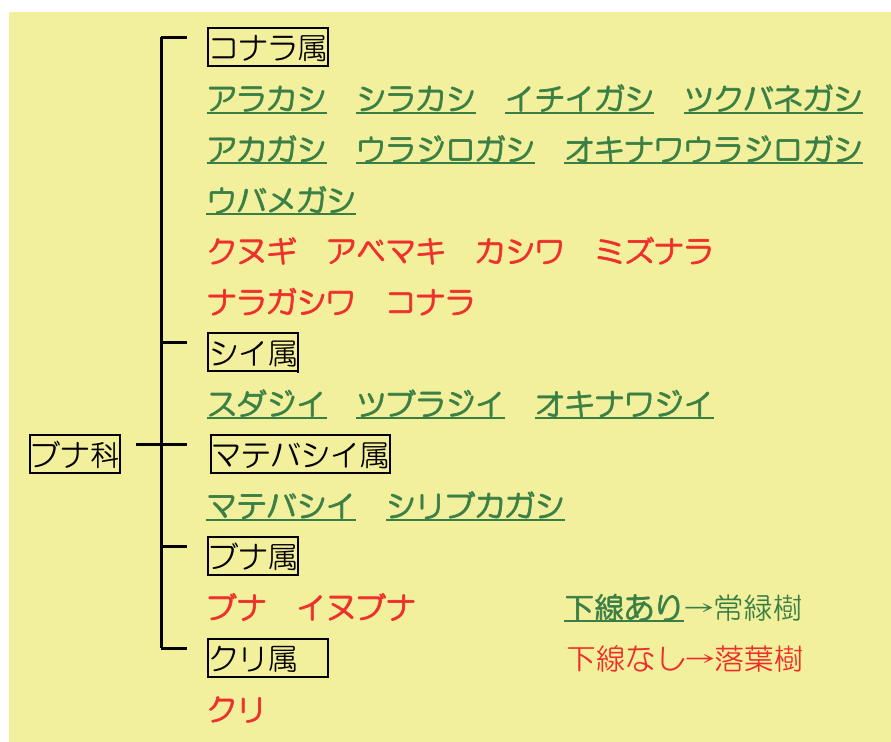
銅鐸を所有していた集落は？

やわたしぜんたい

No.3 山村 元秀

どんぐりころころ どんぐりいろいろ 知ると楽しいどんぐりのひみつ

木津川の堤防にはたくさんのクヌギの木があります。薪炭林として利用されてきた樹木も現在は手入れされることもなく放置されています。樹皮のごつごつしたクヌギの木には夏になるとカブトムシやクワガタ等が樹液に集まり、秋にはイガイガ殻斗の丸いどんぐりを落とします。「団栗」という名前はクヌギのどんぐりをさすといわれているそうです。日本の天然林は「どんぐりの木」の王国です。天然林の高木は、大部分をどんぐりの木が占めています。平地では常緑樹のカシ類とシイ類が多く、寒い地域ではミズナラやブナ類がよくみられます。二次林では、コナラ・アベマキ・クヌギが多くみられます。



●どんぐりはブナ科の木の実で硬い皮を持つ種子のことです。

●クヌギ・マテバシイ・ウバメガシ・シイはどんぐりが実るまでに2年かかります。

●どんぐりが入っているおわんのようなものを殻斗といい、実を守っています。

●拾ってきたどんぐりから白い虫が出てきたことがありますか？これはシギソウムシやハイイロチョッキリの幼虫です。長いくちばしでどんぐりの殻斗に穴をあけ産卵管を入れて卵を産みつけます。

どんぐりには落ちる順番があります

秋になると次々にどんぐりは木から落ちますが、その順番は地域ごとにおおむね決まっています。京都の南部では、クヌギ→コナラ→カシ類→シイ類の順に落下します。この時間差のおかげで、種子を運ぶネズミやカケスなどの野鳥にまんべんなく食べて運んでもらうことができるのです。最後においしいシイ類が落下します。どんぐりを生で食べたことがありますか？スダジイやマテバシイは生でも食べられますが、煎ると香ばしくおいしくなります。多くのナラ類・カシ類はタンニンをたくさん含み、えぐくて生で食べられません。でも、水にさらしたり、加熱したりしてあく抜きすれば、食べられるようになります。縄文時代の人たちにとって大切な食料でした。各地の遺跡から



生食できるマテバシイで作ったどんぐりクッキーです

は食用ドングリの貯蔵穴が発見されています。

市内の公園で見つけられるドングリ

八幡市内はさくら公園にはクヌギ、和気神社にはコナラ、男山団地の中にはシラカシ、周辺の公園にはマテバシイとウバメガシ、石清水八幡宮の鳥居をくぐったところにはスダジイとアラカシの木があります。9月の末から10月下旬にかけてまわって探すと7種類のドングリを見つけることができます。



コナラ



クヌギ



マテバシイ



アラカシ



スダジイ



ウバメガシ

毎年、子ども達に市内で集めた7種類のドングリの仲間分けをさせながら、ドングリの木が多くての生き物の命を育てていることや、ドングリ笛を作る体験してもらっています。その時に使っているドングリクイズです。
答えは0→ア、1→ウ、2→イ、3→ウ、4→ウ、5→ウ

0 ドングリってなに？

ア 木(き)のみ

イ 木(き)のたね

1 このぶぶんのなまえは？

ア ほうし

イ ほんつ(パンツ)

ウ かくと

2 めばえたときのようすは？

ア

イ

ウ

3 ドングリのしゅるいはいくつ？

ア 1 しゅるい

イ 12 しゅるい

ウ 22 しゅるい

4 ドングリはそのままでたべられるか？

ア たべられる

イ たべられない

ウ たべられるものがある

5 ふえにできるドングリのなまえはなに？

ア クヌギ

イ コナラ

ウ マテバシイ



コナラを利用する生き物たち



葉

メタリックに輝く、ゼフィルスとよばれるミドリシジミの仲間が食糧として？を利用します

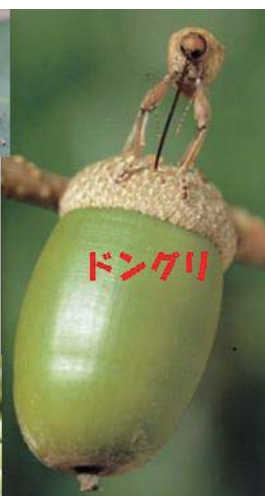


樹液

昼間はタテハチョウやカナブン・スズメバチが、夜になるとたくさんのカトムシが集まります。他にもコクワガタやヒラタクワガタ、夜行性のスズメガやキシタバなどのが、ウスバカミキリやコメツキムシなど多くの昆虫が利用します。



ハイロチョッキリ



卵(タマゴ)



幼虫

クヌギシギゾウムシ幼虫

ハ幡巡礼 イエスに会いに行く③

◆市中のイエス

林政廣

ぶらり東高野街道を歩いていると、民家の玄関に一枚の貼り紙を見つけた。

「ユース食堂、お食事会です。一食八百円」

増えつつある子ども食堂？ 認知症カフェ？ メニューの充実を見るとどうもそうではないらしい。おまけに開催日ときたら、まるで私に「おいでよ」と言う様。月2回、第2・第4水曜の正午から。ぶどうの木教会の聖書の勉強会に行く日だ。

ここで昼食をいただき、東高野街道を志水公民館まで下り、正法寺さんを抜けて坂を登ればぶどうの木教会だ。丁度2時に着く。

運命を感じて連絡先を見ると、自宅の電話番号から1010を引いた数字、局番の981は好物の「くわい」と読める。

座敷卓がぎっしり並び、二十数人のはつらつ男女。すでに料理が載っている。

ご飯、吸い物、鶏のクリームソース、

鰯の酒粕漬焼、酢の物、ブラウニー、珈琲・紅茶。

極上の味とボリュームに満腹。

欠かさず参加して半年、赤飯の折がばつと配られ食事会が10周年であると知った。私は一つ楽しみを見つけていた。

母の介護で料理にはまった私は、頭の訓練を兼ねて次回の献立の一品を調理した。しかし、いざ当日、出された本物を見ると大抵は外れ。例えば、万願寺唐辛子の海老すり身詰め。母に習ったピーマンのひき肉詰よろしく焼くと、海老がコロコロ落ちた。当日、それは衣をつけて揚げてあった。

10年以上の長きにわたり、得意な料理で多くの人をもてなし、ひと肌脱いで人のつながりと幸福を提供。その姿にイエスを見た。

参加者の中にもたくさんイエス。食後に謡や篠笛、マジックなど特技を披露する人、作り手にお手製のエプロンを贈る高齢女性。町のことや行政について新鮮な視点を提供する人。盛り上がり、ひととき解放される。国民民主権と言えど、選挙で孤独の中に1票を投じて、声はなかなか届かない。同調圧力ばかり強く、個人と権力との間に、人が集い、フラン

クに語るワンクッションが無いからだ。食事会では、もう一つの集いに出会った。

美しく活気に満ちた住みよい八幡市を目指して、町や川のゴミ、土砂の回収と清掃、史跡や文化財の整備などを行うルネッサンスムーブメント。その協会の市民交流誌『きずな』も年に4回刊行される。

使われなくなった小学校が交流と協働の場となり、興味深い講座（八幡市民文化サロン）が行われる。福祉とは何か、団地の活性化、再生エネルギー等、今を語る講座は市井の人が多く、参加しやすい。

自分の住む京都市について考えさせられる。出来上がった上意下達の多い行政。国政に対する集会やデモはあるが、市政に対する論議や提案はめったに見られない。過去の歴史遺産と伝統によって人を集めても煮詰まるばかり。市民の元気な息遣いは消えていく。私は、「ひとり市民運動」で活路を模索している。

◆コロナ到来！

安倍首相はパニックに陥ったのか、最も感染に遠い子どもたちを休園・休校にした。共働きの両親に代わり、孫の世話で食事会は欠席。

6月に学校は再開したが、1年生の孫娘が午後2時台に下校してくる。八幡からは間に合わず。

少しの休会の後、人数を半分程にして食事会は再開した。行けないならリモート参加をしよう。

献立を送って下さるので、こんな料理だろうかと思像たくましく調理し、自宅で「ひとり食事会」。その写真を郵送する。

当日、食事会から電話があり、参加者の皆さんがリレー式にしゃべってくださり感激した。

7月末、八幡の駅前ギャラリーで流れ橋の写真展があるのを知り、日曜日なら行けるので最終日に訪れた。少し早く着いたので観光案内所に入ると、市民交流誌『きずな』を持つ人がいて、つい声をかけてしまった。



↑食事会に写真でリモート参加
トウモロコシご飯、焼きハモ、
寒天の小豆あんかけなど

宗教と社会

10

浄泉寺住職 大原 光夫

◆ 経典(仏教)は何処を見ているか

今回で私のお話は一旦終了です。今回のテーマは、経典(仏教)は何処を見ているか、ということですが、

「宗教」と「社会」は別々に存在できません。なぜかと申しますと、それは人間による営みだからです。この間の連載でその特徴的なものを見てください。今回は、そのまとめのお話をします。

近年、多くの方が戸惑った問題は「臓器移植」の問題です。その賛否をめぐって、ばらばらな意見が乱れ飛びました。また、見解を表明した方々も世論を統一するだけの力を持ちませんでした。結局、「臓器移植」を推進(可能にするための議論であって、決定打がないまま臓器移植の時代を迎えました。その根拠は「脳死をヒトの死とする」ということで、臓器移植を可能にしました。一方、このことによって生きる希望を持たれた方々も生まれています。私も「見解」を求められた一人なのですが、私の思いは「臓器移植は、個人の尊厳の

問題で、社会から規定されるものではない。ただ、私は臓器移植をうけて永らえることはしない」。つまり、人それぞれの完全な自由にかかわる問題だと思っています。

何やら陰気な話から入りましたが、最後にこの話の結論を申し上げます。かれこれ、20年ほど前になります。私の娘が龍谷大学に在学していたころです。学校から帰って来て、突然「お父さん。地球にやさしく!」って良い言葉ね。どう思う?」と話しかけてきました。私も、「それは良い言葉やな。それがどないした」

娘は、「いや、この言葉を仏教(経典)の立場で考えるとどうなる?」

どうやら、大学の仏教学の授業でテーマになったようです。いろんな意見が飛びかったのかも知れません。ここは少しまじめな意見を言うておいたほうが良さそうだな、と思い、「仏教(経典)が見つめている世界は、表面に現れたものだけを見るのではないよ。なんでこんな言葉が誕生したのか。そして、『地球にやさしく』の言葉を聞いて『そうだ!』と膝を叩く人が多いほど、実は、地球にやさしくない事態が深刻さを増している。経典が目をつけている場所は、良い言葉ではなく、何故この言葉が

生まれたのか、そのもととなるところに目が向けられているわけだ」と答えました。その時は、「うーん」の一言で話は終わりました。納得したかどうか不明でした。それから、3カ月ほどして学校から帰った娘が「お父さん、私、先生からえらいことほめられた」と言うのです。

何があつたかといいますが、「地球にやさしく」の言葉を「仏教の立場から論じよ」というレポート提出の課題が学生たちに与えられ、私にしゃべらせて、それを丸取りしてほめられたようです。

思わず「アホか!」で、この事件は終わりました。

さて、仏教(経典)はどこを見ているのか? 最初の話に戻ります。

臓器移植に関する法律は、「臓器移植医療や臓器売買に関する法律」とされています。この法律は、「脳死をヒトの死とする」としたことで成立しました。つまり、「脳死」までがヒトで、脳死後はモノなのです。国交省で見えますと、電車の運転手さんやタクシードライバーさんは国交省の旅客課が管轄です。それに対して、ご遺体を運ぶ寝台車・霊柩車はなんと貨物課の管轄となっています。このように、「脳死」後は貨物(モノ)として扱われます。

さて、今回の結論に入りたいと思います。

「脳死」がヒトの最後であれば、ヒトの始まりがあるはずですが、つまり、脳の形成がほぼ完成するころがヒトの始まりとなります。それは、妊娠7カ月らしい。このあたりでヒトとして成立します。では、問題は、それ以前がモノになりはしないか。臓器移植でうごく巨大な医療費にたいして、IPS細胞の研究と進歩は臓器移植とは桁違いの医療費の規模となることは広く知られています。IPS細胞の研究・進化の賛否を申し上げているわけではありません。経典は、表面にあるものと、その奥や対局にあるものを見極める発想なのです。この視点を「諦観」と言います。つまり、本質を見極め、偏った見方をしない。このことで悔やまず、また「目からウロコ」のたとえにありますように、喜びをもたらしたりします。

この社会に生きて人生をおくる。宗教(仏教)と社会は切り離されることなく、その営みが続いてゆくわけです。

おわり



ちよつと能舞台へ

その3

猪飼 康夫

今回は、能舞台での笑を取り上げます。能舞台で演じられる主演目は、能と狂言です。狂言には笑いがありませんが、能には笑いがありません。しかし、謡曲『景清』の鍛引きの段に笑う場面があります。

戦の場で、景清が三保の谷の兜の鍛を力任せに引きちぎると、三保の谷が「汝の腕の力は恐ろしい」と叫び、「汝の首の骨こそ強い」と景清が応えて笑います。この笑いは観客を笑わせるものではなく、景清と三保の谷の笑いです。

他に、『三笑』という笑いの入った題の謡曲がありますが、これは禅問答のような内容で解り難い曲です。

能と狂言は、室町時代に生まれた兄弟のような間柄で、今日に到るまで共に同じ道を歩んできました。双方の性格は異なり、能は生真面目で、狂言は砕けたところがあり、随所に笑いが入ります。性格の異なる点を

文芸の例で示すと、俳句と川柳が当てはまるかと思えます。

狂言の務めには、次の3種類があります。

- 1、本狂言。「末広がり」「棒縛り」「寝音曲」「附子」など
- 2、間狂言として、能の中での一役を勤める。
- 3、祝いの曲「翁」の中で三番叟を舞う。

本狂言には、笑がふんだんに入り観客を楽しませてくれます。

身体表現が大げさで、喋りの中で面白い擬声語を使ったりします。

鋸の音は、「ズカ ズカズカズカ」、戸を開ける時は、「ギー ガラガラガラ」、戸を閉める時は、「サラサラサラ パッタリ」。酒を注ぐ時は、「ドブ ドブドブドブ」。樽が空になった時には「ドブドブドブ ピシヨピシヨピシヨ」と言つて笑を誘います。

身近なお笑い芸能に落語があります。落語は座布団に一人座つての話芸で、生れ育ちは狂言と異なりません。

ところが、これまで別世界で活動してきた落語と狂言のコラボ「落言」の公演があり、金剛能楽堂へ観に行

きました。

上方落語の桂米朝一門と京都の狂言師・茂山千五郎家が交流して生まれた新しい舞台芸能です。落語の喋りと狂言の動きがうまく合体した落言『神棚』を観劇、落語作家、小佐田定雄の話も聞くことができ、満足いたしました。

ただ、狂言師の声はしっかり届きましたが、落語家の声は少し聞き取りにくいところがありました。これは、発声の仕方の相違からきているものかと思っています。

能・狂言は、日本の古典芸能です。古典と言うと敬遠される向きもあるかと思いますが、お気軽に「ちよつと能舞台へ」足を運んでご覧になってはいかがでしょうか。

今回は、「謡曲十五徳」をテーマにしたいと思います。



↑NHK日本の伝統芸（能狂言鑑賞入門）から、狂言「附子」の一場面で、砂糖を毒などと騙したのが憎いと、砂糖を舐めた後、二人は主人の大切な茶碗を割って大笑いしている。



↑京都新聞（令和2年1月30日）から、落言「神棚」の一場面。

八幡俳句歳時記 9

近くにいた俳人たち(4)

奈良市あやめ池

— 続 橋本多佳子

小笠原信

前号の最後で、多佳子さんの代表句の一つでもある次の句をどう解釈するのか提起しました。

夫恋へば 吾に死ねよと 青葉木菟あおばすく

素直に解釈すれば、既に死んでい
る夫が恋しいなら、死んだら（天上
界で）会えるよと青葉木菟が鳴いて
いると読める。取り合わせの句と読
むなら、亡夫が言っているとなる。
しかし、どちらも平凡、理筋の鑑賞。
この3カ月、時々考えていました。
ある夜、ずくの鳴き声が上の方か
ら聞こえて来たのです。「青葉木菟は
オレだよ」と三鬼さんの声です！

そうだ、多佳子さんの目の前に居
るのは、言葉の天才、鬼才の三鬼さ
んだ！ よく見れば、丸い目の辺り
が似ている！「そんなに貞女ぶるな
ら、死んだら？」と彼女をからかつ

ている場面でしょう。これでやっと
腑に落ちた。

さらに、『紅絲』の中には、

息あらし 雄鹿が立つは 切なけれ

雄鹿の前 吾もあらしき息す

のように鹿に仮託された恋情・エ
ロティシズムの直截的な句もありま
す。「夫恋い」つまりは、「三鬼恋い」
の句ですね。こんな指摘は、単なる
俳句愛好者・アマチュアだから遠慮・
忖度なしに出来るのですが、俳句の
本（読んだ範囲ですが）のどこにも
出ていません。そんな交情は無かつ
たと信じ込まされてきたからです。

これらの鹿の句を含め恋情の句の
発想を得ること自体が、良妻賢母の
ままではできません。現実の地上界
での具体的・身体的な情動なくては、
句想は出てきません！ 雄鹿のリア
ルも、人間のリアルも見えてはきま
せん。多佳子さんの殻を三鬼さんが
破ったのです。この敬愛の情感が続
き、彼女の最後の二句につながった
と感じます。

ぼくたちは、エロティシズムや背
徳性を洗い流し、清涼なものとして
俳句を受け取り過ぎているのではな
いでしょうか？ 多佳子さんの豊穡
な句群も、彼女を聖人・聖女化して、

つまり、人畜無害な句として、無難
に読んできたのです。

なお、亡夫の追想という多佳子さ
んのカムフラージュは、深い事情が
あったと思います。

彼女の最初の師匠は、〈餅もちして 山

ほととぎす ほしいまま〉の句で有

名な杉田久女ひさめです。多佳子の北九州

の小倉時代に、久女は週に二度も三

度も俳句の手ほどきを熱心にしてい

ます。この久女は、「ホトトギス」の

女流一番の実力ながらスキャンダル

を嫌った主宰の高浜虚子から敬遠さ

れます（この話は、松本清張の小説『菊

枕』で詳しく読めます）。久女の直弟

子であった多佳子は、男女のスキヤ

ンダルをなにより怖れました。三鬼

さんとのことが醜聞になるのはなん

としても防がねばなりません。主宰

の山口誓子も二人の濃密な関係に気

付いていても、知らぬ存ぜぬを通す

ほかなかったと考えます。

『紅絲』の中の一連の恋情句は、三

鬼さんの「夜の桃」の句への返し句・

相聞句と言えます。同時期に二人は、

一言で言えば「エロティシズム」の

見事な秀句を作った。そこには元に

なる実体験があった！ と推断しま

す。

三鬼さんは、昭和37年4月1日に

62歳で病死（血清肝炎）します。三
鬼さんを悼んで、〈げんげ畑 そこに
も三鬼 呼べば来る〉の句を詠んで
います。その時代单身者だった三鬼
さんは、日吉館にもどこにでも行っ
たんですよ。単純な下五ですが、思
いが溢れていて泣けて来ますね。

多佳子さんは、わずか1年後の昭
和38年5月29日に64歳で病死（肝臓
癌）。後を追うようですね。多佳子
さんの最後の二句。〈雪の日の 浴身
一指一趾愛し〉〈雪はげし 書き遺す
こと 何ぞ多き〉やはり、多佳子さ
んにとっては、日吉館の時代、三鬼
さんとの交情の懐しい時間だったん
です。最後まで思慕したのは夫では
なく、誓子でもなく、かの三鬼さん。
「書き遺すこと」は実に沢山あった。
しかし、二人の立場と結社の事情で
公には「書き遺せなかった」んです。
その哀切な思いが深々とした余韻で
す。



荻原守衛「女」（礫山美術館蔵）

コロナ禍を考える

免疫の新常識Ⅱ

新型コロナウイルス対策

その1

京都女子大学名誉教授

高桑進

新型コロナウイルス対策を考える前に、今までの免疫についての常識が新しくなっていることをご存知ですか。正しい新常識を身につけて正しい対策を身につけてください。

大阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授の宮坂昌之さんが、新しい免疫学の常識について朝日新聞記事（2020年7月18日朝刊4面掲載）で解説されています。お読みのない方もおられるかと思えますのでここではその内容をご紹介します。

まず「抗体イコール免疫」という考え方は20年前までの古い常識であり、新型コロナウイルスでは抗体は免疫の中ではあまり大きな役割を担ってはいないのです。感染から回復した人の3分の1は抗体をほとんど持っていないそうです。

人体の免疫は自然免疫と獲得免疫の2段階構成であり、自然免疫は生まれた時からあり、皮膚や粘膜の物理的、化学的なバリアーが病原体の侵入を防ぎます。そこを突破しても白血球の一種、食細胞が病原体を食べます。ここまですが自然免疫です。食細胞は全身に分布し、異物が侵入すると数分から数時間で発動しますから、自然免疫がしつかりしていれば、それだけで新型コロナウイルスを撃退します。宮坂先生によれば、我々全体の1割程度は自然免疫だけで新型コロナウイルスを排除できるとい

います。つまり自然免疫が強ければその人は新型コロナウイルスに感染しても症状は出ないで完治するということになります。

この自然免疫で排除できない場合に、はじめて獲得免疫が働きます。ところが、この獲得免疫が発動するには数日かかります。最初に獲得免疫の司令塔であるヘルパーTリンパ球が、Bリンパ球に指令を出すとBリンパ球が抗体を作りウイルスを殺します。さらにヘルパーTリンパ球がキラーTリンパ球に指示すればキラーTリンパ球はウイルスに感染した細胞を殺します。つまり、抗体がなくても自然免疫が強いと、キラーT

細胞が活躍すれば回復できるというわけです。ですから抗体の保持率イコールすでに感染して治った割合ではないのです。

さらに、全ての抗体がウイルスを攻撃すると思いがちですが、抗体には悪玉もいるというのです。抗体にはウイルスを攻撃する『善玉抗体』と、逆にウイルスを活性化する『悪玉抗体』と攻撃もしないし活性化もしない『役なし抗体』の3種類あるというのです。武漢医科大学で感染者の血液を調べたところ、無症状者は抗体量が少なく、重症者は無症状、軽症者よりも常に抗体が多い傾向がはつきりと示されたというのです。したがって、善玉抗体がたくさんできてウイルスを撃退できれば軽症で済むはずですが、重症者に抗体が多い新型コロナウイルスは悪玉抗体を多く生み出して、抗体がウイルスの増殖を助けていると考えられています。

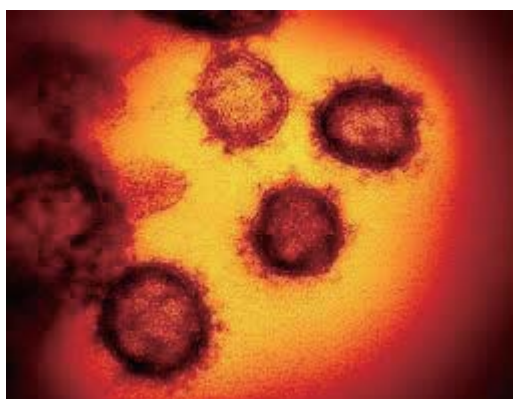
イギリスやスウェーデンで一時集団免疫が唱えられましたが、その成果はご存知のように失敗でした。

一度獲得した免疫が長期間にわたって続くことが集団免疫の前提です。ところが、新型コロナウイルスの免疫が続く期間はとても短くて半年程度というのです。つまり、免疫が半年し

か続かなければ、集団免疫はいつまでたっても獲得できないことになります。

武漢医科大学で8週間後に抗体量を再測定したら、軽症者で4割近く、重症者も2割で抗体が検出不可能なほど減ったというのです。こんなに早く抗体量が減るのは他のウイルスでは見られないそうです。要するに、新型コロナウイルスは今までの常識が通用しないということです。

（つづく）



文学でたどる

八幡の歴史

第10回

吉井勇と八幡 その3

土井 三郎

◆泥龍和尚との交友

八幡時代の吉井勇の歌集『短歌風土記』と『残夢』には、円福寺とその住職であった泥龍和尚こと井澤寛洲に寄せた短歌が数多登場します。(以下、(風)は『短歌風土記』、(残)は『残夢』の略)

圓福寺の鐘にかあらむ月夜田の

里のあけがな霜にひびくは(風)

杯と取れば法師の友のぬる

泥龍窟のおもはるるかな(風)

臨済の修行の寺の奥ふかく

法師いませり寒に耐へつつ(風)



↑泥龍和尚、昭和 17 年撮影

圓(円) 福寺は、八幡市の外れ、福祿谷にひっそりと建つ名刹です。

妙心寺第一座にあつた斯経慧梁禪師が日頃より「江湖道場」(宗派や法脈にとられない道場)の建立を目指していましたが、機が熟し、天明3年(1783)3月に石清水八幡宮別当田中家より達磨の古尊像等を譲り受け、同年6月には浅井周斎より八幡幣原谷の土地の寄進を受け、大應国師を勧請して開山として、臨済宗最初の専門道場である江湖道場として建立されたのです。

井澤寛洲(泥龍老師)は明治28年(1895)に和歌山県に生まれ、16歳で得度し、昭和12年(1937)に円福寺住職に就きます。以来、昭和29年、59歳で亡くなるまで円福寺の住職を勤めあげます。人となりについて次の評価があります。

「師は南天棒の法嗣だけあって気鋒峻烈、剣道三段、水泳二段の猛者。酒豪でもあり書もよくされた。少し近寄り難い点もあったが、親しみ易い人間味のある好々爺でもあった。大田俊道(臥雲)——『泥龍遺芳』より

南天棒とは、明治時代から大正時代にかけて活動した臨済宗の僧侶、

中原鄧州で、常に南天の棒を携え、全国の禅道場を巡っては修行者を容赦なく殴打した豪僧として知られます。山岡鉄舟や乃木希典などが影響されたとのこと。

豪僧南天棒に鍛えられたとあって泥龍は「気鋭峻烈」な禅僧であったことでしょう。一方で、書をよくし、そこには「親しみやすい人間味」が感じられます。



→「至道無難 泥龍」



→「樂 泥龍」

吉井勇と泥龍和尚との交友を詠んだ歌を見てください。そこには酒が欠かせなかったようです。

夜ふかく閉せし門を敲かせて

泥龍和尚酒おこします(風)

いつか見え泥龍和尚酔ひ描きの

竹に似し竹ありて楽しも(風)

苔はしる蛇にをのく吾と見れば

泥龍和尚笑いたまはむ(残)

臨済の酒好き法師たづね来と

おもひながらも冬目ざし見る(残)

のどかな印象の漂う短歌ですが、泥龍が住職を勤めた時代は、戦争と敗戦直後の苛烈な時代でした。元兵士も山門を多数潜ったとのこと。食糧は乏しく、大根や芋ばかりの盛り飯、一方で、作務は烈しく、藪の土入れ、山林の伐木搬出の毎日であったようです。雲水には一等兵あり、陸軍少尉、中尉ありで、そんな彼らを統べる住職の気苦労も大変だったろうと想像できます。

そんな泥龍に病魔が襲います。

秋深き障子にうつる日ざし見て

和尚仰寝に日と終るらむか(残)

寂然と病僧ひとりあるところ

禅のこころの極まりと見る(残)

泥龍老師、昭和29年(1954)2月、豊中市利根山病院にて永眠。

※本稿を執筆するにあたって、現円福寺ご住職政道徳門老師に、資料などご提示頂きました。謹んで謝意を表明します。

読者の文芸

《俳句》

やすお

風のまたまたなびく白き百日紅

秋風や夕餉の支度三拍子

茶席まで稲穂の風の届くなり

女郎花秘話の語り部女塚

また一つ無花果鳥に喰われけり

聖々

小鳥来る三川相逢ふ砂洲あたり

花カンナ前向きな日は服を購ふ

宵の間に鬼の植え置く曼殊沙華

梨を剥く幽けき音や独りの夜

夜の秋ドロンは今もいい男

信

秋の水狼という絶望種

大花野金平糖を撒きしごと

胡桃割る使わぬ部屋に俳諧師

投げられて地球に戻る兎の相撲

ことばだけがわたしの貯金夜なべかな

淑子

故郷へ雲の流るる愁思かな

送り火や辻に消え行く琴の音

魂悼む七十五年終戦忌

協賛金のご協力をお願いします

流灯の最後の一つ海の闇
涎掛の一際赤き地蔵盆

千

新涼や鯉は静かに水を打ち

鳥渡る湖の光に交じるかに

帰らぬと伏す犬の背を秋の風

赤のまま指切りのこと忘れをり

故郷に帰れぬを詫ぶ秋彼岸

重悟

鳳輦を照らす月影男山

迷ひ来て何処に往くや秋の蝶

橋本の遊郭絶えて鳳仙花

やられても潰されはせぬ石榴の実

誓いすら忘れて総理の「終戦日」

橘

冬の日のあれは螢か赤提灯

縁側でビール一杯秋暑し

セミの声いつしか絶えて秋来る

栄

橋立の天さかさまに秋高し

もろこしの香の漂ひし夕餉かな

朝顔の紫紺を愛でし明けの空

蛸や亡母の顔重なりぬ

何となく頬とおりすぐ秋の風

文机のいらぬ俳句や梅雨の雷
海神の化身や飛魚のジャンプ

桂

黄昏て西の湖帰燕のねぐら入り

秋暑し心の旅もままならず

悪ふぎの少年の恋猫じゃらし

悪ふぎの少年の恋猫じゃらし

《川柳》

笑楽

百貨店買わず飛び込む水の音

エイヤつと断捨離してはまた戻す

いらつしやいホールドアップ体温計

アイデアで儲ける人もいるコロナ

マジヤバイ若者言葉使うジジ

◆読者の皆様へ

俳句と川柳が多数寄せられました。
ありがとうございます。「ぎずな」14号は来年1月中旬に
発行されます。冬の句や短歌をふ
るつてご投稿ください。

※切…12月5日

宛先…〒614-8332

八幡市橋本新石22-11

FAX 075・983

・5278

土井三郎

編集後記

「八幡市民文化サロン」では、3月に
予定していた排水機場の見学が「三密」
の恐れから中止になったのを受けて、
高桑進氏に「コロナにいかに向き合う
か」（仮題）と題してお話してもらっ
ことになりました。「コロナ」の問題
では、これから当然、いかに向き合う
のかが問われることとなります。ご期
待ください。

コロナ禍は、経済への影響だけでな
く、文化全般に対しても甚大な被害を
もたらしました。人間が人間らしく生
きていくうえで、文化を介在にして人
と人が繋がり共感・交流しあうことが
不可欠です。「自粛」に押しつぶされ
て文化が疲弊するなどあつてはならな
いことです。

そういう意味でも、市民文化サロンの
開催や「ぎずな」誌の発行を通じて
皆さん方とつながりあつていきたいと
思います。

—「ぎずな」編集委員会—

(郵) 00940-8-196292

NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

(銀) 京都銀行男山支店

普通預金

4165224

NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会